地域がん登録を用いたがん検診の評価
― 藤沢市の肺がん検診を例として ―

宮松　篤*　　岡本 直幸　　夏井 佐代子

1.　はじめに

地域がん登録の活用法として、地域ごとに施行される保健活動の評価が考えられる。藤沢市では、平成 3 年より基本健康診査の対象人口の約 50%にあたる住民に個別検診による肺がん検診が行われており、医師会により毎週、読影会が行われている。自治体による検診が効果的に行われている地域と考えられるが、今回、藤沢市の肺がん検診の効果を評価するため、神奈川県地域がん登録の登録情報をもとに肺がん患者の罹患率と死亡率の経年変化を検討した。

2.　対象と方法

神奈川県地域がん登録の登録情報をもとに、昭和 59 年から平成 11 年までの 16 年間の藤沢市の肺がん患者の罹患率を観察し、県の死亡統計から死亡率を求め、経年変化を観察した。罹患率、死亡率を比較するために県全体での罹患率、死亡率の検討を行った。また、全国の年齢階級別肺がん死亡率と藤沢市の年齢階級別人口から藤沢市の肺がんの期待死亡数を求め、死亡数の O/E 比を計算した。年ごとの患者数のばらつきを平均化するため、検討には 3 年毎の移動平均を用いた。

3.　結果

藤沢市の男性の肺がん罹患率は年々増加傾向を示したが、最近約 6 年間においては増加の傾向は弱まりを見せている。また死亡率も年々増加傾向を示すが、やはり最近 5-6 年間では増加傾向は弱まっており、県全体の死亡率と比較しても増加傾向の弱まりが見られる（図 1,2）。女性の肺がん患者では罹患率、死亡率ともに緩やかな増加傾向が見られるものの年毎のばらつきが大きい。一方、死亡実数を見ると男性の死亡数は期待死亡数と比較して最近約5-6年間

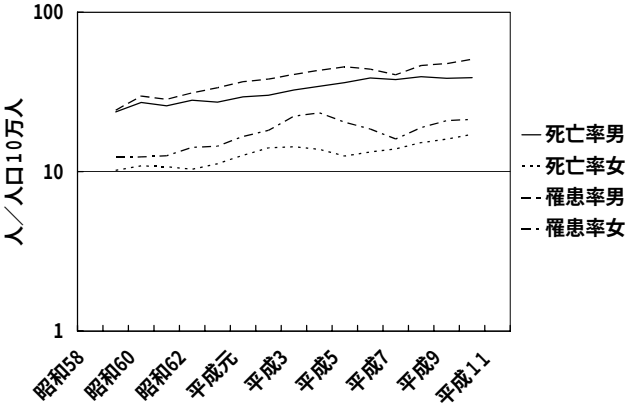

図 1. 藤沢市の肺がん罹患率、死亡率

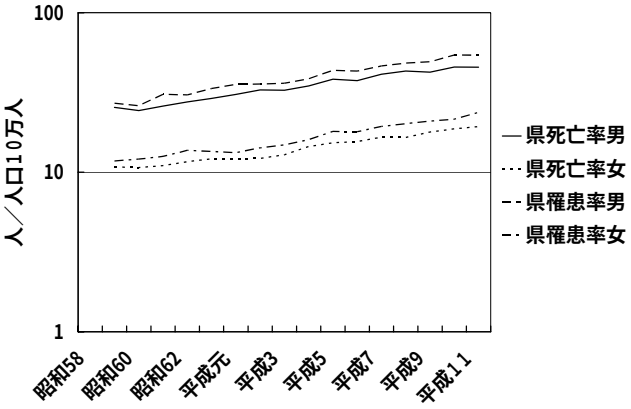

図 2. 神奈川県の肺がん罹患率、死亡率

*神奈川県立がんセンター 臨床研究所研究第 3 科
〒241-0815　横浜市旭区中尾 1-1-2

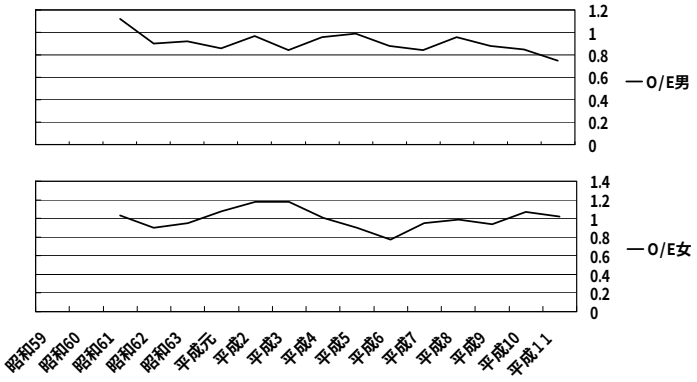

図 3. 藤沢市の肺がん死亡（O/E 比）

で増加傾向が弱まり、O/E 比の低下が見られた（図 3)。女性の死亡者数は期待死亡数と大きな差は見られない。

4. 考察

自治体での検診活動が充実していると思われる藤沢市での肺がんの罹患率と死亡率について経年変化を検討した。最近の 5－6 年間では死亡率の増加傾向に弱まりが見られ、県平均を下回っていた。死亡実数を見ると期待死亡数と比較して O/E 比の低下が見られた。喫煙率の動向も関係すると思われるが、自治体で行われた肺がん検診の効果と関連がある可能性が推測された。

5. まとめ

地域がん登録の活用法として、地域ごとに施行される保健活動の評価が考えられるが、今回、藤沢市における肺がんの罹患率と死亡率の経年変化を観察した。最近の 5－6 年間では罹患率、死亡率ともに増加傾向に弱まりが見られ、県平均を下回っていた。また、男性では罹患率の増加に比べ、死亡率の増加は鈍化していた。期待死亡数との比較でも死亡実数は増加傾向の弱まりを示していた。これらの所見から自治体で行われた肺がん検診の効果が藤沢市の肺がんの死亡に影響している可能性が推測された。